



# 会員のひろば



## 俳句

終戦日古き湯宿の鳩時計  
大西日裏街かどの理髪店

川口 昭治

## 五行歌の会

洗濯泡ブクブク  
まるめて  
ゴシゴシやつつけて  
冷たい水で濯ぐ  
熱中症対策

菅 妙子

「ブラボー!!」

感動の三時間  
シネマ『国宝』  
ラストは圧巻

鶯娘に鳥肌

(注)鶯娘…長唄伴奏の舞踊劇

山崎 礼子

## 絵手紙教室



曾我 隆二

### 「鳴門海峡の大鳴門峡で見たもの」

私はコロナ後の数年前の秋、瀬戸内海の明石海峡～淡路島～鳴門海峡～小豆島、姫路城コースの旅行に参加した。大鳴門橋近くで昼食、その後の自由時間に大鳴門橋上から海峡を見る時間があつたので、橋の展望室ガラス床から見た海峡の渦潮を見てその迫力にビックリしました。その後は観潮船に乗って鳴門海峡の渦潮をまじかに見てその大迫力体験に感激感動したのが今でも記憶の中に残っています。

もう一つ大鳴門橋の歩道部分でパネル展示が有り目に止まり、時間の許す限り展示説明を読みビックリ、そんな歴史が有ったのかと」考えさせられました。1914年11月第一次世界大戦で日本は、敵国ドイツが権益を持つ中国の青島（チンタオ）を攻め落とし約5000人を俘虜（ふりょ）としました。その一部約1000人が現在の徳島県鳴門市大湊町板東（ばんどう）にあった板東俘虜収容所に入れられたのです。所長の松江豊寿（とよひさ）陸軍大佐は厳しい規制の中で、俘虜に出来る限りの自主的な生活を認めました。俘虜の人権を守る国際条約、ハーグ陸戦条約に基づく対応でもありました。

俘虜達の活動は多彩で新聞発行、オーケストラを結成しての音楽活動、パンや、ソーセージ、パウムクーヘン作りと地域の人々との交流もあり、住民は「ドイツさん」と呼び牛豚の飼育やバター作り製パン技術指導も受けていました。また外出も自由であった様です。

板東公会堂で開かれた展覧会では絵画、彫刻などに感嘆し、売店に集まる人々でお祭りのようであったと書かれています。収容中に亡くなったドイツ兵の慰霊碑も建ててあるのです。収容所生活を終え帰国を前にして松江所長と地域の板東の人々への感謝の気持ちで1918年6月1日にベートベンの交響曲第9番「合唱付き」を日本（アジア）初めて第一楽章～第四楽章の全曲を演奏したそうです（歴史的な1ページへ）。

1920年4月板東俘虜収容所は閉所となる。それから40年後に地域住民が草に埋もれたドイツ兵の慰霊碑を発見、1974年に鳴門市とドイツリューネブルク市が姉妹都市提携し交流しているそうです。戦時下で組織上からの圧力も有ったでしょうが、松江所長のとった行動はヒューマニズムに富むもので、この話を知った時大変感動を覚えました。なお松江豊寿は退役時陸軍少将の階級になっていました。文中の俘虜収容所は現在は捕虜収容所の呼称です。

山内 進